

日本農業新聞

システム来年度実用化

農薬散布管理はお任せ

【山形・山形】農薬の誤った使用を防ぎ、効果的な農薬の散布方法も提示するシステムが、来年度から実用化される。携帯電話などを使って情報を送受信するため、その農薬を使っても問題がないのが現場で判定でき、農薬の使用履歴も畑から入力できる。9月から研究・開発者などで組織する「農薬適正使用ナビゲーションシステム(農薬ナビ)研究会」が、山形県天童市の洋梨園地で実証試験を進め、17日までに効果を確認した。

携帯で確認 誤使用防ぐ

農薬ナビ研究会が実証してきたのは、農業生物研究機構がソリマチや山形県の協力で昨年度に開発した「農薬ナビ」を活用したシステム。JAや先進農家グループ向けの業務用として開発された。農薬に関するリスクを総合的に管理する。システムには、誤使用事前防止と使用履歴の記録機能を搭載。防除計画作成時や購入時、使用

時、出荷時など、時間や場所に制約されずに農薬適正使用の判定と警告を出せる。携帯電話を利用

し、栽培履歴情報も記録できる。畑に置いた気象センサーやカメラと連動させ、気象データなども取り込み、より効果的な使用方法を知ることできる。

試験に協力したJAてんどうや農家からは「安心、簡単、正確。履歴を紙に書く手間も省ける」などの評価を得た。試験中には、システムが収穫直前の農薬散布を発見し、収穫を延期させて問題を未然に防いだ例もあった。携帯電話の利用試験に参加した29人のうちの半数、特に50歳未満の世代は全員が、継続利用を希望するなど、好評だった。

今後、流通や消費段階での実証やトレーサビリティ(生産・流通履歴を追跡する仕組み)との連携試験などを経て、全国に普及を図る。問い合わせは、農薬ナビ研究会事務局の「ソリマチ」営業統括本部(☎03(5475)5302)。